



教員が研究の楽しさを語る

第222回(5/28)鎌田 浩二先生推薦

ブックガイド



※掲載されている本はL棟2階 あかりんアワーのコーナーに配架されます。

Book1

言語研究入門：生成文法を学ぶ人のために

著者：大津由紀雄 [ほか] 編

出版：研究社, 2002.4

コメント：人間言語を脳内に蓄えられた知識であると考え、言語の研究を通じてこころの性質を探る観点から書かれた入門書。生成文法理論の基本的な考え方だけでなく進んだ研究の一端も紹介されている。章末の読書案内がさらに理解を深めるのに役立つ。



Book2

言語のレシピ：多様性にひそむ普遍性をもとめて(岩波現代文庫)

著者：マーク・C. ベイカー [著]；郡司隆男訳

出版：岩波書店, 2010.12

コメント：生成文法理論における言語の多様性の扱いについて一般読者向けに解説した書物。本書は、The Atoms of Language: The Mind's Hidden Rules of Grammar (Basic Books (2001年))の日本語訳。言語の普遍性は、多様性と一見矛盾するように思える。本書では「パラメータ」という概念を導入することで、この矛盾が解消できることを多数の言語を使用し実証している。パラメータの観点から、日本語が他言語とどの様に違うのか（又は似ているのか）を知ることが出来る。





Book3

生成文法の企て(岩波現代文庫)

著者：ノーム・チョムスキー [著]；福井直樹，辻子美保子 訳

出版：岩波書店，2011.8

コメント：1980年前後と2002年秋に行なわれたチョムスキーとのインタビューを収録した書物。本書は、The Generative Enterprise Revisited: Discussions with Riny Huybregts, Henk Van Riemsdijk, Naoki Fukui, and Mihoko Zushi (Mouton de Gruyter, (2004年))の日本語訳。チョムスキー自身の考えが詳細に語られている。「訳者による序説」と「訳者あとがき」が、さらに理解を深めるのに役立つ。



Book4

チョムスキーの言語理論：その出発点から最新理論まで

ニール・スミス&ニコラス・アロット著；今井邦彦 [ほか] 訳

出版：新曜社，2019.2

コメント：生成文法理論の初期から最新の理論までを解説した入門書。本書は、Chomsky: Ideas and Ideals (Cambridge University Press, 第3版 (2016年))の日本語訳（政治観を扱った第5章は除く）。本書はチョムスキーの伝記ではなく、彼の言語研究に対する考え方の解説書である。

